

問7 今後の研修で希望する、講師、テーマ、内容について

職種	内容（原文のまま）
1 医師	大切な関心事として深めてゆきたい
2 医師	ACPに成年後見制度を入れる。
3 薬剤師	訪問看護やケアマネージャーの普段どのように活動しているのか知りたい
4 看護師	緩和ケア
5 看護師	地域との連携やディスカッションをしたいです。
6 看護師	防災に関する、わかりやすい情報の関り
7 看護師	いろいろな病院、施設のBCPを聞きたいです。
8 看護師	病院でのBCP、病棟Nsはどうしたらよいかをしりたい
9 看護師	自施設での経験しかなく、他施設での工夫など、情報交換できれば、ありがたい。
10 看護師	介護連携指導料など、医療側の対応や連携方法をより詳しく知りたい
11 保健師	BCPは1回でおわらず、発展した形（計画内容の検証、研修の実際など）、実践型の内容でも良いのではないか。
12 保健師	今回の研修内容をふまえて、自分たちでできないことをそれぞれの職種で話しあう
13 介護支援専門員	居宅介護が必要な方の災害時の対応
14 介護支援専門員	BCPに関する研修は、何回でも参加して損はないと思う。
15 介護支援専門員	どうすれば多職種連携がしやすいか、どう入っていったらいいのか知りたい
16 介護支援専門員	医療からの看取り、ACPについての説明をお聞きしたい。施設、自宅でのタイミングが難しいです（話をする）
17 介護支援専門員	ヤングケアラーについて研修参加したいと思います。
18 介護支援専門員	今後も多職種連携に関する研修をお願いします。
19 介護支援専門員	高齢者を災害時に、一人でも多く助けられるよう、地域住民と専門職をつながられるケアマネとして役割を担えるように動きたい。ケアマネの横のつながりも大切…。
20 介護福祉士	認知症介護について
21 作業療法士	多職種、多病院。施設間の連携のやり方
22 言語聴覚士	実際の連携につながるワークみたいなことがあれば
23 事務	身近で起こりうる困難事例を解決（対処）した事例とか、多職種のチームで取り組んだ事例等を交えた内容

問8 今回の研修会に関する御意見、御感想など

職種	内容（原文のまま）
1 医師	災害時のBCP作成というテーマであったが、既にBCPを作成している災害拠点病院からすれば、実際の災害時のことを想定して、ひな形をそのまま使うのではなく、自施設の状況に合わせて、一つ一つ丁寧に見直してほしい。名刺交換会では、「災害時によろしくお願ひします」と頼まれたが、本音を言えば、南海トラフ級の災害時には、想定死者、想定傷病者相当の数の患者対応に追われて、施設から平時であれば受けられるような症例も、2次、3次医療機関は受けられない。災害時には救急車もつかまるはずがないことを想定して、BCPを作ってくださいと、あらためてお願いした。まだまだ、災害時の厳しい状況が高齢者医療施設、介護施設の皆さんには、現実問題として想像できていないと感じた。
2 医師	継続して研修に参りたい
3 医師	高松市としてのBCP、災害対策の取組みが今回の会ではよく分からなかった 鎌野氏の現地からの報告は大変勉強になった。
4 医師	大変勉強になりました
5 医師	「認識していないことには備えられない」は大切な指標。自分にとって本当に必要なBCPを考えるための良いキッカケになりました。
6 薬剤師	災害時の備えや、多職種の方々の災害支援活動の内容がよく分かり、大変勉強になりました。
7 薬剤師	BCPについてや赤十字による災害時の活動について新しいことが吸収できてよかった。
8 看護師	基調講演がわかりやすくて良かった。パネルディスカッションは時間が足りない印象でもう少し時間を確保できれば良かったと思う。
9 看護師	貴重な講演ありがとうございました。 実りあるものになり、尚且つ、地域とのネットワークの大切さを再認識しました。
10 看護師	初めての参加で、意識不足であった。日々、意識を持って、参加し、又、広めていきたい。
11 看護師	今の能登の事を知れたり、南海トラフに関しての危機感をもてたりした
12 看護師	文章だけでなく直接、講演をきくことで、理解しやすく、リアルの災害地での支援もきけて良かった
13 保健師	実際の災害地で起きている状況がよく分かった。
14 保健師	本田先生の話は、基本的な事であるが、平時からの備えやBCPについても平時に検証、研修してブラッシュアップすることの大切さがよくわかった。まずは、自分や家族の命を守ることが大切だと思っている
15 保健師	自分自身の業務、家族についても災害時の対応について考え直す機会となった

問8 今回の研修会に関する御意見、御感想など

職種	内容（原文のまま）
16 保健師	とても参考になりましたし、能登の件もあったのでタイムリーだったと思います。
17 介護支援専門員	本田先生の講演が分かりやすく、パネリストの方々の発表内容がとても為になりました。
18 介護支援専門員	適切な人選で、今の時期に大変有意義な内容だった。
19 介護支援専門員	能登で実際に支援をしている鎌野先生や、日赤の大林先生の話はとても貴重だった。鎌野先生が時間が無くなったから訪問の話ができなくなったとおっしゃっていた話が聞きたかった。自分自身も居宅ケアマネとして、まずは自分、家族の命、怪我をしない様、日頃から想像して様々対応をしようと思う
20 介護支援専門員	本田先生の話がとてもわかりやすかった。能登とオンラインで繋いで鎌野様の話を聞いたのが良かった。
21 介護支援専門員	BCP策定の意義を理解することができた。DMATやDWAT、赤十字の活動ないようを知ることができた。
22 介護支援専門員	すごくわかりやすかった。居宅支援事業所立ち上げをするので、活用します。
23 介護支援専門員	BCP策定について、不安がありましたので、本田先生の講話をお聞きして具体的に何をすればいいのか分かりやすかったです。高松市の情報も非常に参考になりました。日赤の取り組みも初めて知りました。ありがとうございました。
24 介護支援専門員	本田先生の説明が非常にわかりやすかったです。もっと以前にお聞きしたかったです。言葉にしての説明が助かりました。
25 介護支援専門員	大変わかりやすく説明をうけて自然と内容がわかりやすく勉強になった。平常時にすべき事を行うことの大切さをしっかり考えさせられました。
26 介護支援専門員	BCP作成を頑張ります。
27 介護支援専門員	BCPの訓練について、具体的にわかりやすく説明して頂き、実践できる自信につながった。また、災害時の日赤、DMAT、DWATの活動を知ることができ、実りある研修だった。
28 理学療法士	本田先生の講義、パネルディスカッションの先生方の報告が、聴講していて大変わかりやすく理解でき、興味深く聴く事ができました。有意義な研修会となりました。ありがとうございました。
29 作業療法士	具体的でとてもわかりやすかったです
30 作業療法士	BCP策定しているが、見直しが不十分と感じたのでいかしたい
31 言語聴覚士	本田先生の語り口がとても優しくユーモアもあり、難しい話を分かりやすく、とてもよかったです。
32 医療ソーシャルワーカー	災害支援における、地域の生活に戻る為の医療・福祉・介護の多職種連携の大切さを学べた。
33 医療ソーシャルワーカー	よかったです。
34 生活相談員	現場で動いておられるDWATの活動、問題点が分かり、これからのBCP作成に活用していきたい

問8 今回の研修会に関する御意見、御感想など

35	事務	講師の先生のお話を伺い、改めて、日頃からの顔の見える関係づくりが、非常時の安心につながるのだということを感じた。
36	その他	とても重要な話が聞けた。
37	その他	BCPと聞くと難しそうで避けがちだけど、平時からできる事を考えたり、やってみる事も災害に備える事につながると思った。各事業所の強みを活かし、弱みを地域で支えあえるようなBCPが必要。

問9 人生の最期まで、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために、専門職として取組めそうなこと

職種		内容（原文のまま）
1	医師	施設側の人間ではないので、具体的な取り組みはわかりません。
2	医師	様々な目線で理解を共有していく、まずはその様な心持で過ごして行きたい。
3	医師	皆でいい知恵を出す事は良い事だと思います。
4	薬剤師	やはり多職種間で普段から顔の見える関係を築いていきたいです。
5	薬剤師	通院が困難な人や独居、高齢者夫婦だけの生活の方などに在宅医療をすすめられたらいいと思う。
6	薬剤師	約3年前に作成したBCPの内容の見直し、スタッフへの周知、研修の実施、研修会の内容のスタッフへの情報共有
7	看護師	訪問看護師ですが、訪問時に利用者だけでなく介護者の健康管理に気を配ること。介護者が心身共に健康な状態で介護できるよう配慮することで、利用者とともに穏やかに在宅療養を継続できると思う。 そのためにレスパイト入院や、ショートステイを勧めるが、各施設の今現在の情報収集（空き状況など）が簡単にできるようなシステムがあれば良いと思う。
8	看護師	訪問看護師として地域、在宅医、病院との連携をしっかりと取れるように見える繋がりを作っていく。 災害時などにも安心して生活できるような助言などをしていきたい。
9	看護師	BCPを広めていく
10	看護師	在宅へ帰る、在宅で過ごせるようなていあん。
11	看護師	できることをする、声をあげる

問9 人生の最期まで、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために、専門職として取組めそうなこと

職種	内容（原文のまま）
12 看護師	担会には、必ず参加し、その時、ACPシートを使用し本人、家族の情報を細かく収集するとともに、更新して、今のニーズに合ったことを提供できるようにする。
13 保健師	常にアンテナを高くして、情報を得やすいようにしておく。 国、県の動向なども常に視野にいれておく。
14 保健師	日頃からの連携づくり、情報収集（他機関について理解を深める）
15 保健師	住民1人1人が住みなれた場所でいつまでも生きていきたいと思えるような環境を整えることが大切だと思います。その他絵の環境整備が必要であると考えます。
16 介護支援専門員	サービスが必要な人にサービスをつなげる。
17 介護支援専門員	一般住民の一人一人の状況に添った、より良い提案や知識を持って頂く働きかけ。
18 介護支援専門員	他職種の人と顔の見える関係をどんどん増やして、仕事にいかしていきたい。
19 介護支援専門員	基幹病院の医師の意識をかえていただきたいです。
20 介護支援専門員	自分と家族の安全を確保して、支援ができるようにしていきたい。
21 介護支援専門員	自宅の防災グッズの見直しをしなければいけないとつくづく思いました。会社のBCPも作成だけではなくて、訓練を繰り返し見直しを行っていきたい。
22 介護支援専門員	地域交流、在宅での看取り多くしてきました。この経験を活かせるよう、利用者がどうしたいか、ACPの活用をしていきます。
23 介護支援専門員	本人、家族の意向に寄り添い、介護サービスの調整やインフォーマルサービス等につなげること。 意向が途中で変わることがあったら、その都度対応していく。
24 介護支援専門員	個人情報等もあり、なかなか地域では、すみませんでしたが、今年の能登半島地震により、その後の日常生活ニュースなどにふれ、高齢者の方々が少しずつ、心を開いてくれている途中です。大変いい勉強になりました。ありがとうございました。
25 介護支援専門員	主治医を中心に医療・介護が一体的に提供されることです。
26 介護支援専門員	日頃からの顔の見える関係づくりで介護・医療の人達と良好な関係を築き。ネットワークを拡げていきたい。
27 介護福祉士	開かれた地域ネットワークがあれば参加しやすい

問9 人生の最期まで、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために、専門職として取組めそうなこと

職種	内容（原文のまま）
28 理学療法士	病院や自治体と情報共有し、生活の場である自宅で、ADLを維持・改善できるよう訪問リハビリテーションを提供できればと思います。また発災時だけでなく、普段から、個別避難計画の策定や避難所まで避難できる為の歩行能力の向上等にも、理学療法士も関わっていただければと思います。
29 作業療法士	地域ケア会議などを通じた助言、地域の問題的を見つける。またその改善
30 作業療法士	地域をしる、出向く、公民館活動、ハザードマップ等の確認
31 言語聴覚士	本日のお話にもありましたが、「認識していないことには備えられない」だと思い、多くの方がいつかさしかかることになるのに知られていない嚥下機能低下や誤嚥性肺炎予防について主に一般の方（+介護する方）に伝える仕事をはじめました。自助、共助がすすめばいいなと考えています。専門職として、もっと他の役立ち方があるのかもしれないけど…と悩みながら動いています。貴重な機会をありがとうございました。
32 医療ソーシャルワーカー	地域住民に向けての、多職種でのイベント。 在宅医療コーディネーター主催で「まちかど相談室」や、コミセンなどでの講演会など。
33 事務	コミュニケーションをとること
34 事務	普段、やり取りが少ない職種の方がこのような研修会等で交流を持ち、今後の連携につなげられるよう、支援していきたい
35 不明	人として思いやりのある行動をできる範囲でやりたいと思います。
36 不明	みんなを繋げる橋渡し